

地域を支える高齢者福祉施設・社会福祉法人と都民を結ぶ

アクティブ福祉

第46
2021.9

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



P2-4

特集

コロナ禍における デイサービスへの影響とこれから

P5-6

うわさの施設

東京の介護ってすばらしい!
グランプリ受賞施設へのインタビュー

P7

新時代旋風

新時代委員会での取り組み

P8

Join us! イベントのご案内

コロナ禍における地域に向けた取りくみの工夫
～オンライン事例報告会の開催～

P13

東京ケアリーダーズ活動紹介
活動報告

9... ● 専門委員会リレートーク
第13回:人材対策委員会

10... ● 養護分科会トピックス

11... ● 軽費分科会トピックス

12... ● センター分科会トピックス

14... ● 職員研修会トピックス

15... ● 私の心に残るエピソード

15... ● 編集後記



Facebook
更新中!



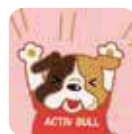
高齢協
ウェブサイト



高齢協
会長
@koureikyo



YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会



コロナ禍における デイサービスへの影響とこれから

通所・利用時の感染対策や業務・活動内容の対応など、デイサービスでは新型コロナウイルス(以下コロナ)流行の影響を大きく受けています。今号の特集では、その影響や対策、今後の活動などについて、高齢協デイサービス分会の今裕司(分会長、あすなるみんなの家 統括施設長)、遠藤茂(副分会長、デイサービス初音の杜)、平林孝浩(渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ 管理者)にお話しいただきました。

進行:遠藤茂 ※対談は7月29日にオンラインで実施されました。発言は当時の状況に基づきます。

コロナ流行によりデイサービスが直面した困難

遠藤 コロナが流行して一年以上経過し、デイサービスを取り巻く環境は大きく変化しました。

この間、皆様の施設ではどのようなお困りごとがあったかお聞かせください。

今 感染流行当初は、未知のウイルスで情報が少なく、何をすべきか、感染者が出た場合の対応などが全く分からず、不安や恐怖を感じました。基本的な感染症対策が重要なことはわかっていましたが、職員や利用者に確信をもってアドバイスができず心苦しい状況でした。

また、外出での歩行訓練がしづらくなったり、送迎車の窓を閉めていると自治体に連絡が寄せられたりするなど、風評や周囲の目線がシビアになっていたと感じますし、それが職員の疲労やストレスにつながっていました。

遠藤 今は地域からの目線は変わったという感覚はありますか。

今 相当変わっていて、今は外出しても後ろ指をさされることはなく、この雰囲気であればいずれは外でのレクが再開できるのではないかと思います。

平林 私の施設でも当初は情報不足による社会混乱の影響で、マスクやアルコールなどの物品の確保に苦労しました。従来の歌などレクプログラムに対してリスクの指摘もある一方、機能維持・フレイル予防などにデイサービスはメリットがあり、利用者には難しい説明が求められたと思います。



▲ 平林 孝浩氏

年間を通じたキャンセル率は2.4%上がり、利用率の改善が課題でしたが、第二波の流行のころ、フレイルが問題になると世間で話題になり、利用を促すきっかけになりました。

最近ではワクチン接種によるキャンセルが増え、職員は対応に苦慮しており、今もデイサービスは感染リスクがあるという認識が消えていないと感じています。

遠藤 キャンセルされた方への対応についてお聞かせください。

平林 情報提供を行ったり、長期欠席の方には自宅でできる体操集を配布したりしていますが、それでも来ていない方のADLは下がっている傾向があると感じます。図らずもこうしたところでデイサービスの効果が明確になっているのではと思います。

遠藤 デイサービスは通所施設で利用時に必ず出入りがあるため、感染症対策は難しいと感じています。

私は当時別の施設にありましたが、そこでは職員の感染があり、2週間ほどデイサービスを休止しましたが、再開後に利用者がほとんど戻りませんでした。また、職員の家族が感染を心配して出勤に反対され、職員が勤務できないケースもあり大変な状況でした。

今の施設は地域性なのか法人の特性なのか、大きな影響は感じていません。



▲ 遠藤 茂氏

コロナ禍における地域とのつながりの変化

遠藤 感染が発生した施設では、ボランティアからのグローブの寄付や物品購入に対する都や国の補助金などに助けられました。コロナに際してできたつながりの変化についてお聞かせください。

平林 ボランティアがこられなくなり、外出やレクなどの活動も制限されました。その中で大きく変わったのはIT化です。iPadを増設し、記録の共有など業務の効率化につながりました。全事業所にプロジェクターを導入し、ZOOM等を活用したボランティア活動ができるようになりました。ボランティアマッチングサイト「YELL」の活用により、海外の方から活動の提案があるなど、新たにグローバルなつながりが出来たことは職員にも利用者にもプラスだと感じます。

今 私の施設では難しい状況にあり、コロナ流行前は

強みとなっていた敷地内にある法人の保育園との交流や、近隣の方とのつながり、地域のサークルの活動場所としての場所の提供などが、現在は止まっており再開のめども立っていません。そうしたつながりに代わるものを今も模索しているところです。

遠藤 ボランティアが入れなくなったことで、その方々の外出の機会や人との交流の機会が少なくなる＝フレイルのリスクが上がるのが心配でした。感染症が収まったころには、現在のボランティアの方が施設の利用者となってしまっている可能性もあります。ボランティアがいないことで職員の負担も上がってしまっていると思います。

事業運営の課題 新たなデイサービスの役割を

遠藤 今後想定される、事業運営に関しての困りごと、また、今後について、何か思いがあればお話いただければと思います。

今 現在は物品コストも下がっていますが、再び高騰する可能性もあるため、今のうちにある程度の数を確保しておく必要があると思います。また、従来の収支バランス、ともすれば利用者1人あたり3平米という基準でよいかなどのビジネスモデル



▲ 今 裕司氏

まで含めて考え方を改める必要があるかもしれません。一度止まった関係をもとに戻すことは非常に困難ですが、それが課題だと感じています。また、それに代わる新しい関係を作り出すことも考えなければなりません。最近、施設を活用いただいていたサークルから再開したいと相談がありましたが、まだそれは難しい状況です。再開しても以前と異なる条件が付くでしょうから、ニーズにこたえられるか疑問です。地域貢献の面で何ができるか、難しいながらも考える必要があります。一方でデイサービスの役割の再認識がなされたと思います。コロナ禍で他者との交流の重要性が叫ばれています。そうした役割を持つデイサービスの有用性は訴えやすくなったのではないかと思います。

平林 困りごととしてはやはり地域で顔を合わせる機会が減ったことです。当施設では地域との合同避難訓練を年二回実施していましたが、それができなくなり災害発生時の不安を感じています。利用を一時的に休止する方への健康維持支援も課題です。ITを使えない高齢者への支援も考えなければなりません。地域の高齢者同士でIT活用を促しあうような仕組みが必要なのかと思っています。

当法人の運営する高齢者センターは平成30年には計89万人の利用があったのですが、令和2年は38万人に下がっており、60%の方が外出機会を失っているといえます。その方々のフレイル対策も課題で、地域を巻き込んだ介護もデイサービスの使命だと思います。

福祉人材の面でも課題があります。福祉の職場と医療機関など他の職場と兼務で働く方が、感染症対策でどちらかに専従するケースが見られ、人員不足につながるため、その対策も必要です。

遠藤 職員の負担は増えてはいますが、個々の努力の甲斐もあり苦しみながらもなんとか回っています。他の業種と比較するとこの状況でも安定している介護の仕事は、人材募集という点ではプラスに働く可能性もあると思います。

デイサービスは在宅サービスの入り口という重要な機能を持っていますので職員とボランティアが現状できうる協働をしつつ、ニーズに沿ったサービスを展開していくことが使命だと思います。

感染者が発生した際の対応と今後の課題

遠藤 デイサービスでは現在までにしばしば施設内での感染が発生していますが、今後に生かすためにも、感染事例とその対策や反省点の共有をお願いします。

平林 当法人ではデイサービス21か所のうち昨年度7事業所で陽性者の報告がありました。いずれもクラスターには至りませんでした。デイサービスの利用者は利用後に外出することもあり、感染していたら市中感染を広める可能性もあるため迅速な検査が必要です。保健所が業務過多ですぐに対応が出来ず、民間のPCR検査を自費で受ける流れを原則としました。特に濃厚接触者の定義は1年前と現在では大きく異なります。このように自治体の対応が地域や時期によって異なる現状は課題であると思います。

今 当施設では今年の5月21日に職員1名の陽性が初めて確認され、翌日から20営業日の休業となりました。結果として職員6名利用者13名が陽性となり、職員利用者とも10～15%とかなり高い感染率となってしまいました。現在も利用者の減少など影響が残っています。

最初の感染判明後、保健所からは濃厚接触者はいないが念のためとして検査対象者が定められましたが、直後に対象外の利用者の感染が発覚。結果、さらに最終利用日を遡るなど対象者を大幅に拡大して検査することになり、ほぼ全員が濃厚接触者とされました。保健所の指示にかかわらず最初から全員検査していればもう少し拡大を抑えられたのではないかと思います。大きな反省点です。

また、濃厚接触者と判断される前に利用者がほかのサービスを受けているケースもあり、他の事業者や関係機関、外出先にもご迷惑をかけてしまいました。

もう一点、感染発生時に利用者に連絡をする際、電話か手紙などの手段しかなく、ICTを活用した連絡などしっかり伝わる仕組みも必要だと思います。

在宅サービスではこのように感染が発生すると本当に大変です。私自身あきる野市高齢者支援課の感染症対策の検討会にも加わっていますが、入所施設は感染が発生した際の応援体制の構築などされましたが、在宅は関係機関でメーリングリストを作り感染発生時に情報共有をするという対策に留まっています。この改善は大きな問題として積み残されています。

情報を共有・発信できる枠組みの構築を

遠藤 最後に、今後取り組みたいことや目標についてお聞かせください。

平林 当法人では数年前から公益型混合介護に取り組んでいます。これは介護保険のはざまにいる方に、買い物支援や安全確認、ゴミ出しなどの簡単な生活支援サービスを提供するものですが、こうした取り組みをコロナで孤立してしまう方への支援および人とのつながりの維持の一助として提供したいと思います。

もう一つは高齢者センターにこられなくなった方へのITの普及活動で、現在ZOOM講座などを開催しています。その中では目黒警察署と協働して振り込み詐欺

講座を冒頭に設けるといったこともしています。一方、ネット環境がないという高齢者の方も多く、FMラジオを活用した高齢者への情報提供手段も模索しています。

遠藤 利用者だけではなく家族にとってもデイサービスの利用が非常に有効であることは間違いのないことなので、この状況下にあっても利用し続けてもらえるような状況・環境を作り、利用者・ご家族ともに支援したいと思います。そのために感染症の予防というのを徹底し、毎日続ける・毎日来ていただける場を提供するという、基本的なことではありますがそうしたことをしっかり心がけていきます。

今 遠藤さんと同様、まずは二度と大きな感染を発生させず、毎日営業するというデイサービスの本分を全うすることが一番の目標です。

近隣の施設が感染により止まった際、利用者のご家族はサービスが利用できず苦しい状況に立たされます。そうしたときに自治体と事業者間、そして高齢協も交えてフォローを行える枠組みを作り、その中で私たちの施設が積極的に支援できるようにすることを将来の目標として考えています。

遠藤 この対談を通じて、大変勉強させていただきました。感染時の状況など、お話ししづらい部分もあったかと思いますが、この情報が共有されることが会員施設の皆様のお役に立つのではないかと思います。本日はありがとうございました。

■記録・編集 東京新聞 木下聡文

読者モニター からのご意見

(一部抜粋)

読者モニターの皆様からいただいた
ご意見を紹介します!

- ✓ 「東京ケアリーダーズが行くうわさの施設」については、内容が現場に即しており参考になった。
- ✓ 他の施設の取り組みやブロック活動について、様々な意見を知ることができ参考になった。
- ✓ 文章ばかりでなく、写真の量やレイアウトなどに工夫改善の余地があるように感じた。
- ✓ 一貫してコロナという共通テーマで構成されていたので、自身の職場や生活に置き換えながら読むことが出来た一方、被っている内容が多い印象を持った。
- ✓ 今後の参考に繋がる、新たな情報や工夫などのトピックスがあればよい。

いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

機関誌第45号(6月号)の 訂正とお詫び

以下の点について誤りがありましたので訂正いたします。関係者および読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。以降、誤りのないよう細心の注意を払って編集作業を行ってまいります。

p.3 特集 常任委員会の委員挨拶

●制度検討委員長

誤) 理事長 宮澤 良浩

正) 施設長 宮澤 良浩

●デジタル推進委員長

誤) 社会福祉法人 友愛十字 砧ホーム

正) 社会福祉法人 友愛十字会 砧ホーム

東京ケアリーダーズが行く! うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員(約1200施設・事業所)のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。



うわさの施設

その12

2020年「東京の介護ってすばらしい! グランプリ」 レシピ動画部門 最優秀賞
特別養護老人ホーム神明園

既成概念に捉われない食事ケアを 月1度のお楽しみメニューで実現 サプライズで会話の弾むきっかけに!



▶動画はこちらからご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=_eOilXBgowk&list=PLALBsUYOEnVliHnUP78YE61QqUnbCCfQf&index=7



左から中村直人さん、渡部智佳さん、齋藤佳子さん

高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしい! グランプリ」(以下東すば)。レシピ動画部門では、食べる人が五感で楽しむことが出来る驚きのあるメニューを考案、作る人の立場に立ったわかりやすい丁寧な動画を作成し、審査員及び一般の方から高評価を得た特別養護老人ホーム神明園が最優秀賞を獲得しました。

今回の取材では、役務部長の中村直人さん、栄養相談担当の齋藤佳子さん、給食委託会社株式会社 LEOC 店長の渡部智佳さんにお話を伺いました。

—今回のレシピのコンセプトをお聞かせください。

渡部 テーマが「家庭で作れるごちそう食」でしたので、新しいメニューに挑戦しました。ちらし寿司に柿の種を使うという驚きの要素も取り入れています。硬い食材は煮たり、小さく切ったりすることで高齢者でも食べやすくしています。応募時期が秋でしたので、調理師と話しながら多くの秋の食材を取り入れました。

—一品数が多くて、ひとつひとつのトッピングに手間がかかっていますね。

齋藤 多くの食材を使うことで食事を楽しんでもらいつつ、野菜類やたんぱく質をしっかりとれるようにしました。初めて料理をする方でもできるような動画を意識して作りました。

—メニューが出来るまでの流れをお聞かせください。

渡部 調理師から香りと食感のよい柿の種を使おうという提案がありました。枝豆とあわせて、ビールのつまみのようなものちらし寿司に乗せれば驚きのあるごちそう食になるのではといことを多職種の委員会で話し合ってアイデアを足しながら作りました。思わずハミングしたくなるカラフルな料理にしました。

—動画をつくるうえで意識したことをお聞かせください。

渡部 初めて料理をする方向けに、素材の扱いなどの説明をしっかりとしました。彩りを意識した野菜やサーモンの飾り切りもしっかり撮影。柿の種の工程はレシピの目玉ですので、丁寧に紹介しました。



柿の種の工程

—柿の種を煮る作業工程は丁寧だと感じました。詳細な説明で普段は料理をしない私でも作れそうだと思います。今回、初めての動画作成で苦労したことはありますか。

齋藤 料理初心者に向けての調理の説明をしていたら、尺が伸びてしまったことです。動画作成業者と相談しながら

縮めていきましたが、結果指定の時間内には収まりませんでした。

—彩も綺麗で手が込んでおり、提供時は利用者も喜ばれたのではないのでしょうか。

齋藤 彩りよく盛られているため、見た目喜んで貰えたのと、食べてみておいしいねと皆さんに言っていただきとてもうれしかったです。それぞれ異なる下味の組み合わせを楽しんでもらえたのかなと思います。

—メニューの提供時、常食以外の方への提供の工夫はどのようにされましたか。

渡部 食べにくい野菜などは一度ミキサーにかけたものを冷やして固めて、型抜きをして花の形を作り見た目も楽しめるようにして提供しました。

—動画・受賞の反響と審査コメントに対する感想をお聞かせください。

齋藤 入居者に食べてもらいたい気持ちがとても伝わったというコメントが本当にありがたかったです。また、高校生の方からもコメントをいただき、幅広い世代の方が動画を見てくれているのを知り、驚くと同時に動画を見てレシピに興味を持ってもらえうれしく思いました。また、入居者懇談会で受賞報告をした際、良かったねと言って頂きました。

—普段のメニューづくりで心がけていることはありますか。

渡部 365日3食の食事なので、バラエティに富んだものを提供しています。ジュレの乗った冷やしレモンラーメンやバレンタインのチキンソーテージュソースなど、驚きのある一風変わったものも提供しています。月に1回入居者と懇談会で意見を伺い反映させています。

齋藤 お楽しみメニュー考案者の大内部長がテレビやお店のメニューを参考に、リンゴ牛丼や味噌ラーメンにシュークリームトッピングしたのが始まりです。過去のグランプリでは洋食メニューを出したこともあります。



神明園の過去の応募作品や日頃のメニュー

—今後の目標をお聞かせください。

中村 高齢者の食事については健康とQOLの根幹にかかわるためとても大切に捉えています。食を通じて刺激や感動を提供することを目標に邁進していきたいと思えます。今回の受賞は現場の努力が形となったものですので、これを励みに今後も頑張っていきます。

—最後に施設のPRをお願いします。

中村 現在クールビズ期間で、職員にはアロハシャツ着用を推奨しています。こんな風に、魅力ある介護の実現のために、生活すべての場面で何かしら楽しみをちりばめています。こうした取り組みの情報をFacebookやホームページで随時発信していますので、ぜひご覧いただければと思います。



(インタビュアー)

ケアリーダーズ
はるびの郷 小林 健太さん

彩や食感などのために大変多くの手間をかけていて、食事に対しての強い熱意が感じられました。私自身もそのように熱意をもって仕事に取り組まなければと身につまされる思いです。本日はありがとうございました。

社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園

所在地:〒205-0023 東京都羽村市神明台4-2-2 TEL:042-579-2711

ホームページ <https://sinmeien.or.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/sinmeien/>

■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 小林 健太(はるびの郷)

■記録・編集 東京新聞 木下 聡文

新時代旋風

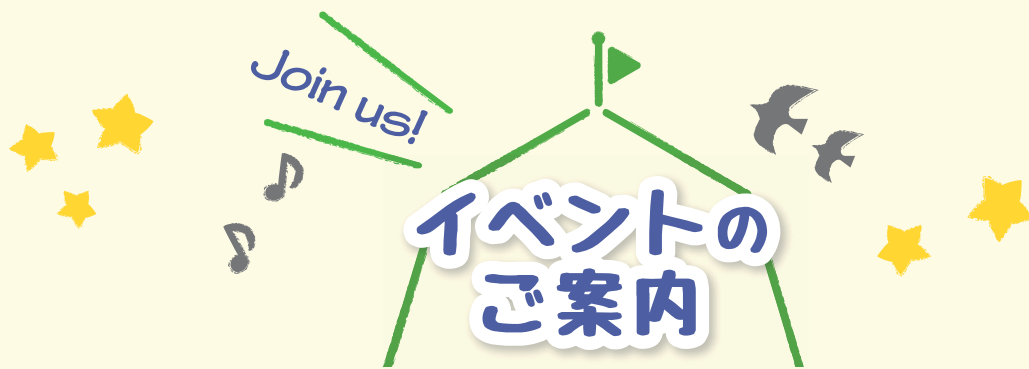
特別養護老人ホーム恵比寿苑

施設長 やまもと さとる
山本 悟

新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会は、今年度から長洲園の川口睦弘施設長が委員長に就任されました。5名の新メンバーも加わり、熱心でエネルギッシュな新委員長のもと、令和3年6月24日に新体制での第1回委員会をZOOMにて開催致しました。川口委員長より委員会の主旨や、昨年までの活動を説明頂き、委員内での情報共有を行いました。今年度の独自企画研修について意見交換を行い、研修は2回開催とし、1回目は委員会内部での研修、2回目は外部講師や異業種交流などの形式を取り開催するなどの、概ねの方向性を決定致しました。研修内容については、人財のことや心が明るくなれるテーマ、新時代の委員会だから出来ることなど、活発な意見交換がありました。時間の関係もあり、委員会内で再度研修内容についてアンケートを取り、次回の委員会で決めることとなりました。

今年度も、新時代の高齢者デザイン検討委員会は、新時代に向けた活動やアイデアが発信出来る様に、取り組んで参ります。





コロナ禍における地域に向けた取りくみの工夫 ～オンライン事例報告会の開催～

地域包括ケア推進委員会

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム

社会福祉法人秋川あすなる会 あすなるみんなの家

統括施設長 ^{こん} ^{ひろし} 今 裕司

だれもが安心して暮らせるまちづくりのため、都内の高齢者福祉施設・事業所による地域に寄り添う取り組み「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO (以下、つなひろ)」キャンペーン。コロナ禍のため今年度も中止しますが、ワーキングチームでは、このような状況だからこそそのニーズや取り組み、工夫があると考えています。

そこで、昨年11月に行ったアンケートに寄せられた実践例を会員間で共有し、活動のヒントを得ることを目的に、6月25日(金)オンラインによる事例報告会を開催しました。

まず、文京学院大学教授の中島修先生より「コロナ禍における地域とのつながり」と題した講演をいただき、コロナ禍の社会情勢を様々なデータから把握したうえで、人が人を支える大切さを再確認しました。

続いて2つの施設より、感染対策や実施方法の見直しで従前からの活動を継続したもの、新たな取り組みを始めたものなど、それぞれ複数事例をご報告いただきました。

60名を超える参加者からは、「現状に合った取り組みを学べた」「大きな視点に気づき力をもらえた」「リスクが気になり動き出せていなかったがアイデアをもらえた」「参考になるので今後もこのような会を継続してほしい」といった声が寄せられました。

「つなひろ」キャンペーンは中止しますが、我々が地域とつながり寄り添う活動の必要性がなくなったわけではありません。

ワーキングチームでは、今後も皆さんが地域に寄り添う活動を進めていくためのヒントを共有できる取り組みを続けていきます。皆さんのご参加をお待ちしています。



● 専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会(※)に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

13回目
人材対策
委員会

人材対策委員長

社会福祉法人賛育会 中央区特別養護老人ホーム

マイホーム新川 施設長 **羽生 隆司**

●外国人介護士・支援員雇用状況及び外国人受け入れ制度に関する実態調査を実施します

介護の現場の本格的な外国人従事者の受け入れは、2008年のEPA(経済連携協定)による介護福祉士候補者の受け入れから始まって、2017年9月には在留資格「介護」の創設、同年11月には技能実習制度の介護分野への拡大、2019年4月からは新たな外国人材の受け入れとして13分野の「特定技能」制度が創設されました。さらに同年5月には、留学生の就職支援に係る「特定活動」(本邦大学卒業者)についてのガイドラインが策定されました。

今回の調査では、都内高齢者福祉施設において永住・定住者を含めたこれら在留資格別の雇用実態を明らかにし、外国人介護従事者雇用に係る支援策等を検討するための資料とするほか、とりわけ技能実習生と特定技能外国人従事者の1時間当たりの費用について、雇用している施設様の特段のご協力を得て、これら在留資格に係る負担についても明らかにしたいと考えています。またこれから外国人従事者の受け入れを検討している施設様の率直なご意見もいただければ大変ありがたいです。本年10月には概要を報告します。

●採用担当者研修・情報交換会を開催します

施設の採用担当者様向けに採用リテラシー向上のための研修・情報交換会を8月27日に開催しました。今回はコロナ禍でもありWEB開催でしたが、情報交換会を通して採用担当者同士のネットワーク構築も行いました。今後も継続的な開催を検討しておりますので、楽しみにしてください。



オンライン配信の様子

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

運営に関する基準等の一部改正

～感染症の予防及びまん延の防止のための訓練～

● 軽費老人ホーム(A型)サンホーム 施設長
池田 清彦
いけだ きよひこ

改正内容には、感染症の予防及びまん延の防止のための訓練として、平時から、実際に感染症が発生した場合を想定し、発生時の対応について、訓練（シミュレーション）を定期的（年2回以上）に行うことが必要とされております。

● 感染症予防、蔓延防止に向けた取り組み

今回はサンホームの取り組みとして利用者の居室が個室である軽費老人ホームの特性を生かしたゾーニングの訓練状況をお知らせいたします。

サンホームの利用者居室は全室が玄関 板の間 居室（トイレあり）となっております。感染症発生時の消毒等については割愛いたしますが、板の間と居室の間を「マスキナー（テープ付養生シート）」で仕切ります。これにより廊下がグリーンゾーン 板の間がイエローゾーン 居室内がレッドゾーンに区分けできます。

マスキナーは塗装の際に養生として使われることが多くありますが、室内の工事でも発生する埃がシート内に収まるためその効果は有効と思われます。また、費用も安価であり、保管スペース、廃棄の際のごみ量においてもビニールシートより扱いやすいもので、少ない人数でもすぐに対応できる簡便なものです。



● 訓練を終えて

今回マスキナーを張る際に一人ではきれいに張ることが難しく、二人で行うことの必要性を感じました。また、風に影響されることから天井に張った面の補強、下に垂らした部分に重りをつける等の改善案が出されました。

また、訓練報告を受けた不参加者からは「一枚で仕切るのではなく暖簾状に2枚張り、横も補強したほうが良い。暖簾としての仕切り部分は仕切りが分かるようにビニールテープを張るほうが良い。」との意見が出されました。

実際に行うことで改善点が分かり、訓練の必要性を再確認いたしました。現在はこの対応を主としておりますが、他に良い方法があればご教授いただき、またこれでは有効性がないという場合においてもご指導いただければと思います。

コロナウイルスを含む感染症の対策はそれぞれの施設がご苦慮されており、その必要性を理解しながら正解を導き出すには難しいものです。

会員施設がそれぞれの取り組みを共有し、ご利用される方、働く職員にとってよりよく、安全な環境を提供できるよう知恵を出し合っていければと思います。

新型コロナウイルス感染症の 流行とサービスセンター 初音の杜の取り組み



- 社会福祉法人 一誠会 デイサービスセンター 初音の杜
居宅サービス部 通所介護課 課長 **加藤 順**

2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症は世界に拡大し、日常生活のあり方が一変していきました。

初音の杜では、基本的な感染対策を講じつつ、できるだけご利用者の方々の楽しみの機会を減らさないよう心掛け、ボランティアの受け入れもすべてを制限するのではなく、飛沫や密に繋がる活動は感染予防に努めながら続けてきました。

また、活動においては通常レクリエーションに加え、マスクが品薄状態になった時期には、布製手作りマスク制作を開始し、全利用者に配布する事ができさらには地域の方々にもお配りすることもできました。参加利用者からは、「自分が作ったもので喜んでもらえて自分もとてもうれしくなるし、やりがいになっている」とコロナ禍ならではの取り組みとなりました。

一誠会では令和3年7月4現在、デイサービスも含め全職員の2回目のワクチン接種をすませています。感染予防は100%ではありません。

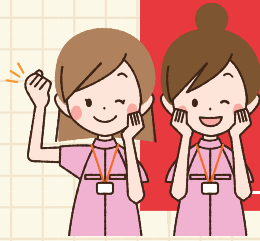
外出自粛が日常化してしまった現在の状況において、デイサービスが社会交流の場として大きな役割を担っていることを自覚し、ご利用者はもちろん、職員やボランティアの方々などの体調管理に努め、引き続き感染予防に努めてまいりたいと思います。



手作りビニールクロスで配慮しながら
ハーモニカ演奏を楽しみました。



やりがいを感じながらマスク製作にも力が入ります。



東京ケアリーダーズ 活動紹介



東京ケアリーダーズとは？

東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。メンバー全員が特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設で働く現役の介護福祉士です。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。



あかね苑 あらい ゆうすけ
荒井 裕介

緊急事態宣言が発令され日常生活に制限がかかる中、ケアリーダーズとして、介護従事者としてできることはないかと考える時間が多くなりました。コロナ禍で制限がある中でも、今までと変わらない生活が出来ていること。介護の仕事ができていること。今まで当たり前に来ていたことができなくなったことで、福祉の仕事の魅力を改めて感じることができました。

感染症対策や、ワクチン接種を進めていく中で重要だと感じたことが情報の発信です。私の施設でも面会や外出を制限せざるを得ない状況で、なんとか利用者様のケアの質を維持しながら日常生活に楽しみを与えたいと考えた結果、参考にしたのは他施設の取り組みでした。その施設では積極的にSNSなどを通して情報を発信しており、感染症対策をしながら色々な企画を実施していました。コロナ前と何一つ変わらない様子で楽しむ笑顔の利用者様の姿を見て、これが今私のすべき使命なのだと感じました。

ご家族様からの励ましの言葉や、同じ介護従事者の方との関わり。ケアリーダーズのメンバーであることが私にとってのやりがい、魅力に繋がっているので、自分の言葉でこれからも発信していきたいと思っています。

現在制作している「介護の魅力を伝える冊子」ですが、少しずつ完成に近づいています。沢山の方に見ていただけるような魅力のある冊子にしたいと思っていますので、楽しみにしててください。



ケアマネジャー研修委員会について

● ケアマネジャー研修委員会 委員長
社会福祉法人 池上長寿園経営本部 経営企画課長

おおかわ なおと
大川 直人

●「ケアマネ研」とは

ケアマネジャー研修委員会は、東京都高齢者福祉施設協議会における委員会活動のひとつである職員研修委員会の職種別委員会となります。

メンバーは、会員施設・事業所の施設長や職員の中から都内地域ブロック会の推薦や、公募参加により、10名程度で活動しています。

●「ケアマネ研の活動」とは

ケアマネジャー研修委員会の活動は、年4回の委員会、年2回の研修開催を基本としています。研修1回の開催につき、打ち合わせを兼ねた委員会を2回、上半期と下半期に開催しています。



●「ケアマネ研の企画する研修」とは

年2回開催予定である研修の内容は、委員会での検討を通じて決めていきます。日常業務における悩みや疑問、法や制度改正への対応、ケアマネジメントのあり方など、「あたり前」に感じているものをテーマに企画構成しています。

直近では、LIFEへの対応を含めた介護報酬改定のポイントなど、現場に必要な研修はスピード感をもって開催できるよう意識しています。

●「ケアマネ研の役割」とは

介護保険制度が発足して20年が経過しました。この間、ケアマネジャーは、現場において、日々の実践の検証、分析を積み重ね、ご利用者のQOLの向上に資する取組みとしてきました。このケアマネジメントの取り組みは、「あたり前」として実践されているものですが、この暗黙知は形式知へ、そして制度化されていくことで、ケアマネジャーの質の向上へつながるものではないでしょうか。

ケアマネ研は、「あたり前」の検討から、将来を見据えられる“場”としての役割を認識し、皆様の参画をお持ちしております。

私の心に残るエピソード

社会福祉法人ウエルガーデン ウエルガーデン西が丘園
小田部 達也

私は仕事をする中でいつも気を付けている事があります。

『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば、人は動かじ』
海軍大将 山本五十六の言葉ですが、その中の特に、『誉める』という点です。

人間良くない点が目立つもので、改善の指摘をすることは簡単ですが、その後で上手く出来た所を誉める事が大事だと思っています。

そんな私の心に残るエピソードですが、自己肯定感の低かった部下が、自分自身を認めてあげられる様になった事です。

仕事が丁寧で様々な業務を任される人でしたが、自分の仕事の出来に納得出来ていませんでした。謙虚は良い事なのかもしれませんが、人事考課では自己評価が低く、上司との評価に乖離がありました。

上手くいかないと思考する事でいつか仕事が嫌にならないか心配になり、面談を実施し、私はそこで出来ている事を見つけて誉める様にしました。

面談を重ねながら、2年程たった頃には自信がついたのが、人事考課では『上司に相談しながら、〇〇〇の業務を達成した。』と、嬉しいコメントがありました。誉められる事で、人は認められたと認識するのだと思います。

この嬉しい出来事は私の中で強く残っており、日々の業務の糧となっております。



編集

後記

表紙では、施設での行事の様子を紹介しておりますが、新型コロナウイルス感染症の対応については、まだまだ気が抜けない状況ではないでしょうか。

今回の特集は、コロナ禍のデイサービスの現状と課題、新たな役割などを掲載しています。特集以外にも、各施設のコロナ禍の取り組みも掲載していますので是非参考にしてみてください。

また、つわさの施設では、レシビ動画部門の最優秀賞が紹介されています。高齢協のユーチューブチャンネルから、今回エントリーしたレシビ動画をご覧いただけます。

今年度から、読者モニター制度がはじまりました。これまで、数名で機関誌の内容を検討した中で、読者モニターの皆様の貴重なご意見と今年度から機関誌のワーキングチームメンバーも倍になり、いろいろな視点で検討ができることができました。

現在、広報推進委員会では、室長を中心に、「介護の魅力」を伝えるアニメ動画の制作に取り組んでいます。初めての試みなので、今から完成が楽しみです。コロナ禍で広報戦略推進委員会もオンライン開催ですが、早く直接会って開催できる日が来ればと思います。

社会福祉法人台東区社会福祉事業団
特別養護老人ホーム三ノ輪

施設長 勝又 宏

介護施設様のご入居様向け、
通信販売を開始しました！

全国の名産・名品を カタログで通信販売

創刊号！


通販カタログ 

Summer 夏号
カタログ有効期限
2021.9.30

たま たまちゃんのおススメ
お土産・くだもの・置物など

懐かしいをもう一度！
おいしいをもっと！
楽しいをずっと！



気分は日本一周旅行？
フルーツ、お菓子にお土産も・・・
気になるじゃ！






介護施設にいますと、
欲しいものがあったても
自由に買い物できません

周りに迷惑をかけたく
ないと遠慮してしまう

あのお菓子が
食べたいなあ



そんな、ご入居者様の「欲しい」を
叶えるために生まれた通販です。

カタログ無料配布中
ご入居者様、人数分のカタログをお届けします！



Produce of care image
介護の応援

☎ 03-3272-8000

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日祝を除く)

✉ tama@digimärke.jp

株式会社 木万屋商会 営業部開発室
きまんやしょうかい
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-3-4

※本会事業に協賛いただいた企業の広告を掲載しています。ただし、掲載広告については、情報提供のみを目的としており、本会が推薦等を行うものではありません。

発行 ● 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1 番 1 号 飯田橋セントラルプラザ 5 階
TEL 03(3268)7172 FAX 03(3268)0635 URL <https://www.tcsv.tvac.or.jp/bukai/kourei/>